



いま、日本では、地震がさかんに起こる時期なの

地震がよく起こる時期と、起こらない時期がある

地震はどの時代にも、いつも同じように、起こるとはかぎりません。ある時期には、連続して起こり、その後しばらくの間は、地震が起こらなくなり、また、ある時期にひんぱんに起こる、というようなことが、くり返されています。

1995年、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）が起こった、西日本では、内陸でわりあい大きな地震が、何回か起こった後、紀伊半島の沖合いの海底で、巨大地震（マグニチュード8以上）が起こり、その後しばらくは、静かになっていました。

いま、どんな時期なのかよくわからない

1927年に京都府北西部で、北丹後地震が起こり、2925人の死者が出ました。その後、1943年には、鳥取市付近で、鳥取地震（死者1083人）が起こりました。続いて、1944年の東南海地震（死者・不明1223人）と、1946年の南海地震（死者1330人）の、2つの巨大地震が、紀伊半島の沖合いで起こりました。しかし、その後は最近まで、西日本に大きな地震は、起こりませんでした。

兵庫県南部地震は、西日本での新たな、地震活動の始まりではないか、と考える学者がたくさんいます。しかし、確かなことは、わかっていません。

日本のそのほかの地域でも、今、地震がさかんに、起こっている時期なのか、よくわかっていません。（監修・国司 真）

